「萩焼を超える」と、青雲の思いで

きよし窯)は、一族あげて作陶に励み、砥部焼「山田兄弟窯」(雲石窯・白水窯

山田一族奮闘の歩みをたどる。3兄弟窯の同時展覧会は初で、

現代砥部焼最強の陶工一族となった。

現代砥部焼最強の陶工一族

故人)、三男・紀慶(きよし窯初代・昭岩男(白水窯初代・昭和22年開窯=(雲石窯2代目=故人)に続き、二男・正5年に開窯し、後継した長男・正男正5年に開窯し、後継した長男・正男山田善吉(雲石窯初代=故人)が大

技術などを、独特の濃い呉須を使った(中元竹山2代目長女)が、受け継いだた4代目・雅之と夫人の中元ひろみ路線に転換した。現在では京都留学し雲石窯は3代目・善弘から砥部焼伝統

食器などに生かしている。白水窯は茶 代目・公夫が有田へ留学し学んだ技術代目・公夫が有田へ留学し学んだ技術で新境地を開く一方、ひろみ夫人が、華で新境地を開く一方、ひろみ夫人が、華で新境地を開く一方、ひろみ夫人が、華で新境地を開く一方、ひろみ夫人が、華でが境地を開く一方、ひろみ夫人が、華でが成地を開く一方、ひろみき人は、愛媛県指定無形文化財や「と、この他、くらし館では、所蔵の日本最大級のコレクション「夜着」の入れ替え、種の低部焼や生活用品、体験コーナーなど展示内容も充実して、2024年度シーズンの幕を開ける。

器・食器などの分野に幅を広げて作品

和22年開窯=故人)が独立開窯し、

3兄弟窯ともに繁栄している唯一の窯

元だ。茶器から始めたが、その後、花





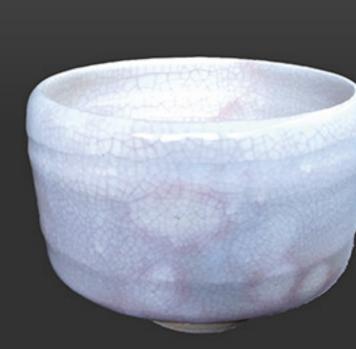
国登録有形文化財 証部むかしのくらし館 TOBE OLD DAYS LIFE & ART MUSEUM SINCE 1905













会期:2024年3月2日(土)~7月28日(日)





温まる、 らしがあっ





砥部むかしのくらし館

TOBE OLD DAYS LIFE & ART MUSEUM **SINCE 1905**

主屋は、商家らしい帳場

や、優美で技巧

など、明治期の

た江戸時代から現代までの暮らしに関す は、砥部に唯一現存する最古の物。他に類 の貯蔵と出荷作業目的に建築された蔵 **建築美が随所にうかがえる。砥部焼製品** を見ない大きく高い吹き抜けと、2 階部 ガがトラス構造で柱がない空間が広が この歴史的建物の中に、 丈夫で使いやすい構造に 代々で蒐集し

石など百年の歴史を感じる風情のある庭

身とする。"主屋と蔵*が砥部焼の産業遺 座として「国登録有形文化 拠点(梅野商会)として創立されたのを前 砥部むかしのくらし館」は、明治38 大「梅山窯」(梅野精陶所)のビジネス 905)、現存する砥部焼窯元の最 財」に令和5年

狭しとある。生活用具を使っての体験コー 統的砥部焼コーナー、筒描、着物・帯など に、所有のうち16点が常時展示されて ミュージアムとして観覧できる。中でも日 焼の象徴的な陶鶴群、苔むした灯籠や庭 から現代までの道具・生活用品などが所 の展示ほか、砥部町今昔パネル、江戸時代 なくなった幻の逸品が、「夜着回廊」など をした掛け布団)が見物だ。全国的に数少 本最大級のコレクション「夜着」(着物の形 また、「淡黄磁」、「型染」、「唐草」など伝 もあり楽しめる。日本庭園には、砥部



廊下越しに庭に置かれた砥部焼の鶴を見る。



国登録有形文化財 旧梅野商会 主屋・蔵 (砥部むかしのくらし館)



「夜着」日本最大級のコレクション



国登録有形文化財 砥部むかし

TOBE OLD DAYS LIFE & ART MUSEUM **SINCE 1905**





〒791-2132 愛媛県伊予郡砥部町大南701 TEL.089-962-5258

【開館日】 土曜日・日曜日 (入場無料)

る民具など約5万点が収蔵展示され、

開館時間:10時~16時 tobe-mukashi-museum.jp





■駐車場のご案内 当館南側の『商店街来客用駐車場』 をご利用ください(無料)。